



八千代市 農業委員会だより

市内農家 インタビュー



八千代市島田台 金子卓矢さん・友加里さん



八千代市島田台の金子苺園さんは、白い外観と可愛らしい看板が目を引く直売所が目印で、市内でも人気の苺園です！今回は、市内農家の紹介ということで、金子さんご夫婦にいちご栽培のこだわりなど聞いてきました！



Q どのくらいの規模で作っていますか？

いちご狩り用のハウスが15アール(1,500m²)、販売用のハウスが20アール(2,000m²)ほどです。直売所では、いちごの販売といちご狩りの両方を楽しんでもらえるよう工夫しています。小さな規模の苺園ですが、来てくれる方に喜んでもらえると嬉しいです。



▲金子苺園の直売所と
オープンクローズ看板

当苺園のおすすめは全部です♡
ぜひ食べ比べてみてください！



Q 栽培しているいちごの種類と人気の品種は？

いちごは、全部で7種類くらいです。栽培している種類は、「紅ほっぺ」「かおりの」「やよいひめ」「よつぼし」「おいじベリー」「ほしゅらら」「みくのか」などです。いちご狩りで人気は、形や色が綺麗な「ほしゅらら」です。

Q 始めから農業を志したのですか？

もともと僕の父の苺園だったのですが、継ぐつもりはなく、会社員として働いていました。ですが、父の他界をきっかけに“自分がやらなければ”という思いが芽生え、農業の道へ進みました。まったくの初心者からのスタートでしたが、家族や地域の皆さんに助けていただきながら、一步ずつ学びを重ねています。父の想いを受け継ぎつつ、周囲の支えに感謝しながら、新しい挑戦を続けています。

Q ハウス設備の推しどころは?

🍓炭酸ガスの調整や灌水(かんすい)、カーテンの開閉を自動で行い、効率良く栽培管理しているところです。でも、最終判断は自分の目で見て行うようにして、機械と人間の力をうまく組み合わせて、より良いいちご作りを目指しています。



Q いちご栽培のこだわりは?

🍓直接口に入れるものなので、減農薬にこだわっています。人に無害で自然にも優しい天敵製剤で病害虫を防除し、安心安全ないちご作りを心掛けています。農業資材の値上がりでたいへんな時もありますが、自分の子供が安心して食べられるいちごを皆様に届けたいと思っています。



店内は木の温もりを感じられる
アットホームな雰囲気

Q ご家族で作業をされているのですか?

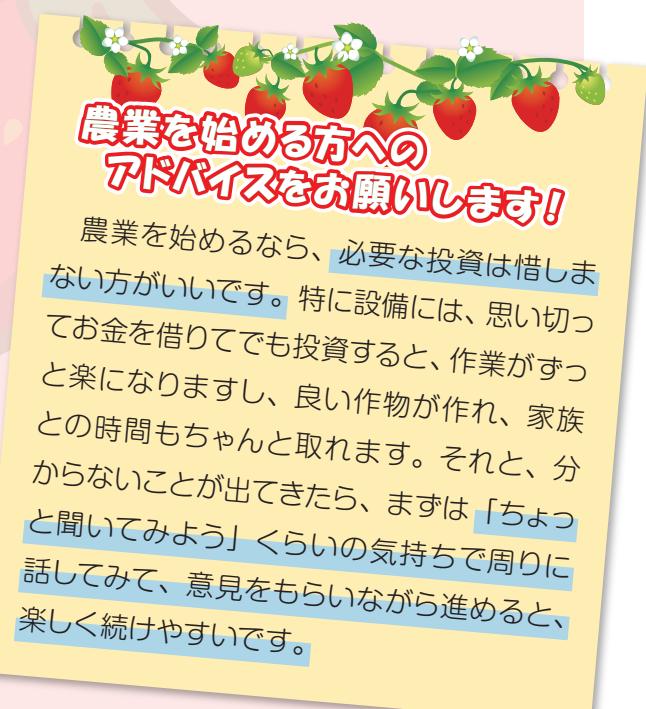
🍓基本的に家族(自分・妻・母)でやっています。そこに雇用スタッフさんやパートさん、さらに農業ボランティアの方にも協力していただき、本当にいろんな人に支えもらいながら成り立っています。最近は、地域や人とのつながりを大事にしながら、福祉事業との関わりも視野に入れていて、少しずつ広がりを感じられるのが嬉しいです。

Q お店で大切にしていることは?

🍓いちごの販売やいちご狩りでは、お客様と直接お会いしてお話する時間を大切にしています。日頃の感謝の気持ちをもって、美味しいいちごと楽しいひと時をお届けできるよう心掛けています。

Q これから、やってみたいことは?

🍓家族3世代で楽しんでもらえる直売所にしていきたいです。気軽に立ち寄って、ついでに「子供がこんなに大きくなつたんだよ」とか話してもらえるようなお店です。そして、安心して食べてもらえる美味しいいちごを届け続けることはもちろんですが、毎シーズン新しいことにも挑戦して、来てくださる方が“次はどんな楽しみがあるんだろう”とワクワクできるような場所づくりをしていきたいです。



お花屋さんとのコラボTシャツ

小学生未満のお子様向けに
紙エプロンの無料配布



金子苺園のいちご入り
ジェラートも作っています





金子苺園

- ・住所：千葉県八千代市
島田台969
- ・直売所：12月～(予定)
- ・いちご狩り：1月～(予定)



取材後記

いつまでも若いと思っていた卓矢さん。彼のお父さんは、子供の頃からの親友でした。



今回の取材で改めて卓矢さんと話をしてみると、視察や研修を重ねて準備をして、就農後もいろいろな経験を積んで、しっかりした経営者になっていました。周りの人にも支えられて、今では近所でも評判の苺園のご主人です。

これからも友加里さんやお母さんの力を借りながら、地域のリーダーとして苺園を成長させてください。（広報委員 市川 善美）

委員活動報告①

東葛・千葉地区女性委員研修会の報告

令和7年7月1日、習志野市役所にて本研修会が開催され、習志野市実耕で農業体験農園を経営している方の講演がありました。

従来の貸農園という形ではなく、基本的な農具・資材・肥料は農園に準備しており、園主の長年の農業経験による親切丁寧な指導のもと、初心者でも一年目から豊作を目指せる農園です。

周辺農地の住宅化が進み、都市農業の難しさを感じていた中で、住民の方々や消費者との共存を考えたことが開園のきっかけとなったそうです。

開園当時の農園体験者は、定年退職されたご夫婦が多かったのが、現在ではお子さんを連れたご夫婦が増え、さらに新規就農者となって、農園の体験者へ農作業を指導するようになった方もいらっしゃるそうです。

これも新しい農業・農地の在り方の一つですね。（広報委員 黒澤 京子）



委員活動報告②

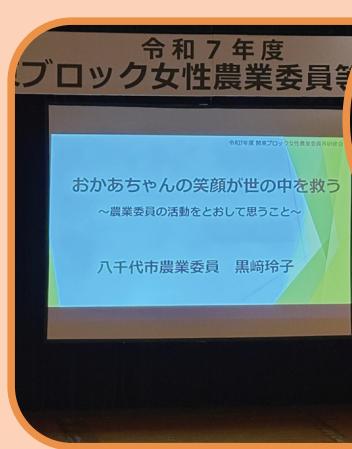
関東ブロック女性農業委員等研修会の報告

令和7年10月23日、千葉県教育会館にて本研修会が開催され、関東ブロックの農業委員会に所属する女性委員等約375名が参加しました。

プログラムは、委員による事例発表と、経済ジャーナリストの荻原博子氏による特別講演の二部構成でした。事例発表では、当委員会の黒崎玲子委員が講演を行い、農業委員に就任した経緯や現在3期目となる活動の中での苦楽を話されました。また、これまでの経験を活かした新たな挑戦についても語られ、参加者の共感を呼びました。

次回の開催県は、神奈川県とのことです。

（広報委員 黒澤 京子）



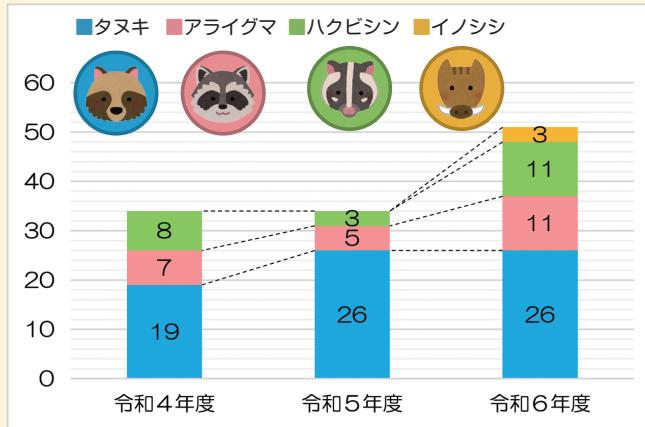
注意喚起

地域ぐるみで害獣から農作物を守ろう!



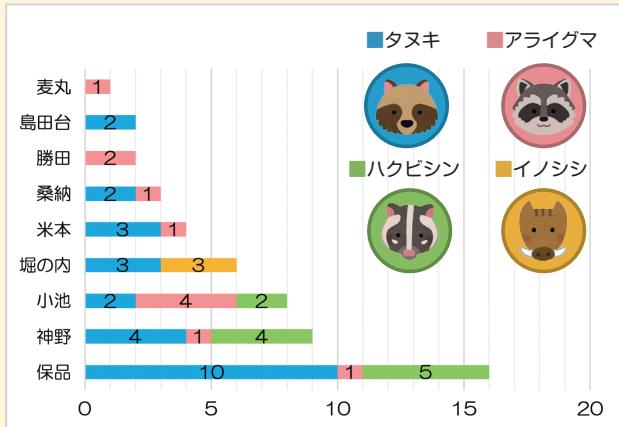
近年、八千代市内においても、農作物に被害を及ぼす動物＝害獣（タヌキ・アライグマ・ハクビシン・イノシシ）が増えています。下表は、害獣の種類別【表1】および地域別【表2】の捕獲数です。

【表1】害獣の種類別の捕獲数推移(直近3年間)



提供元:農政課

【表2】害獣の地域別の捕獲数(令和6年度)



提供元:農政課

● 獣害対策の3つの柱 ●



害獣の対策を実行する際には、「捕獲」「環境作り」「防護」の3つを組み合わせて実施することで害獣を撃退する効果を高めることができます。



今日からやってみよう! 獣害対策

- 農地と周辺を少しづつ草刈りする
- 「ごちそう」をきちんと処理・廃棄する
- 害獣を見たらすぐに通報する

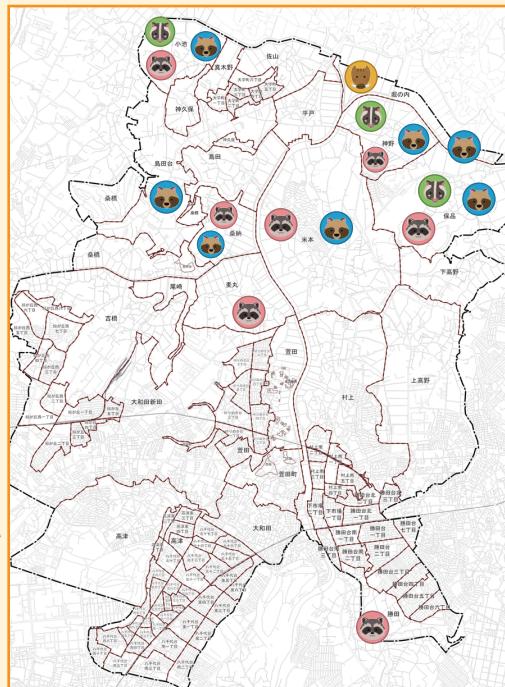


害獣の四大「ごちそう」

- 1 二番穂・落穂
- 2 収穫作物の残さ
- 3 放任果樹
- 4 野菜くず



市内における害獣の捕獲分布図(令和6年度)



○八千代市では、アライグマ等を捕獲するための「小型箱わな」の貸出および市職員による設置補助を行っています。

また、イノシシについては、習志野八千代獣友会が「くくりわな」を設置して捕獲を行っています。

○農地で害獣を目撲した場合、また農業被害があった場合には下記までご連絡ください。

【害獣の農業被害に関する窓口】⇒ 農政課 (☎ 047-421-6764)



お知らせ

新しい農地利用最適化推進委員のご紹介

第2区（睦区域）の農地利用最適化推進委員が欠員となっていましたが、令和7年7月7日の農業委員会総会において、安原利幸氏が委員として委嘱されました。

安原委員は吉橋、尾崎地区を担当します。よろしくお願いいたします。



【任期】令和7年7月7日～令和8年7月19日

八千代市農地等の利用の最適化推進施策に関する意見書の提出について

令和7年9月30日、農業委員会から服部友則市長へ意見書を提出しました。

意見書は4つの項目から構成されています。

- ①遊休農地の発生防止・解消に向けて
- ②担い手への農地利用の集積・集約化について
- ③新規参入の促進に向けて
- ④農業経営の安定対策への取組に向けて

① 遊休農地の発生防止・解消に向けて

本市の遊休農地は約101ヘクタールが存在し、周辺ほ場への被害（雑草繁茂、害虫発生）が生じている。今後、担い手の不足により、遊休農地はさらに増加していくことが見込まれる。

農業委員会においても遊休農地解消事業を手掛けているものの、遊休農地を耕作が可能な状態に復旧するためには多大な労力を要し、費用負担も大きいことから、農地中間管理機構（以下「機構」という。）が行う遊休農地解消対策事業等の積極的な活用に取り組み、遊休農地の解消を図っていただきたい。



また、当委員会では遊休農地の所有者に対し、意向調査を実施しているが、機構へ農地を貸し付ける意向を示しても、借受け基準に適合しないとの回答が全てであり、新たな担い手も見つからず、遊休農地の解消も進んでいない。

そのため、遊休農地であっても一律に借受けの対象外とせず、農地の状況を確認し、担い手の確保が見込める農地については、機構に対し借受けの対象とするよう、市から申し入れを行い、事業の正常化を図っていただきたい。

② 担い手への農地利用の集積・集約化について

前年においては「地域計画」の策定にご尽力いただき、農用地の効率的かつ総合的な利用への道筋がついたことは大いに評価できる。一方、将来の耕作者が不在となる農地が視覚化され、集積・集約化は依然として途上にあることも明示されている。

集積・集約化を進めるためには、ほ場条件の改善が必要であり、今後の小区画水田の再基盤整備事業等を推進するには、「地域計画」における協議の場等を活用することが不可欠である。

そのため、補助事業や税制優遇措置等の各種制度の積極的な周知と活用の支援を行っていただき、未実施地区における農業関係者に理解を得て事業を推進できるよう、取り組んでいただきたい。

③ 新規参入の促進に向けて

近年、農業者の高齢化に伴う担い手の減少が顕著な中で、今後の担い手を確保するためには、市外や農業以外の業種からの参入が欠かせない。

農業委員会では新規就農希望者に対して農地のあっせん等を通じ、新規就農者の確保に努めているが、着実な確保に繋げるには、本市農業の長所を周知し、他市町村との差別化を図り、新規就農者への適切な情報提供とフォローアップが重要である。

現在実施している新規就農者に対する各種施策が奏功し、徐々に新規就農者が増えてきている現状をPRできれば、更なる新規就農者の確保に繋がるため、本市の施策をまとめた特設サイトを構築するなど、就農希望者に対する積極的な情報提供活動を推進していただきたい。

④ 農業経営の安定対策への取組に向けて

農業者は昨今の円安・世界情勢の変化に起因する農業関連資材等の高騰等により、極めて厳しい経営状態に置かれており、農村への将来の影響が一層懸念されている。以下の点について、持続可能な農業経営を実現するにあたり、検討していただきたい。

（1）獣害対策に係る市単独補助

害獣（タヌキ・アライグマ・ハクビシン・イノシシ）による農作物被害については、本市でも増加傾向になっている。周辺自治体においては、イノシシの捕獲頭数が年間で千頭を超えるなど、対策が急務となっており、狩猟資格の取得補助や電気柵の設置補助等を設けている。本市においても地域の状況に応じた獣害対策を新設し、これ以上被害が拡大しないよう対策を講じていただきたい。

（2）肥料・資材・燃料・飼料・農業機械の価格高騰への対策

農業生産に必要な資材等の価格上昇が農業経営を圧迫しており、農業経営の継続が困難な状況になっている。県の行う肥料価格高騰対策及び飼料価格高騰対策はもとより、市単独による上乗せ補助等について検討していただきたい。

老後の備えは 国民年金+農業者年金 !

農業者年金

で老後の生活に備えませんか?



右の要件を満たす方ならどなたでも加入できます

- 年間60日以上農業に従事
- 国民年金第1号被保険者(保険料納付免除者を除く)
- 65歳未満(60歳以上は、国民年金の任意加入被保険者)

農業者年金の特徴

- 積立方式・確定拠出型で少子高齢時代に強い!
- 保険料は、月額2万円*から6万7千円まで千円単位で自由に決められる。
(※35歳未満で政策支援加入の対象とならない方は1万円)
- 終身年金。80歳前に亡くなられた場合は、死亡一時金として遺族へ支給される。
- 支払った保険料は、全額社会保険料控除となり、所得税や住民税の節税ができる。



★農業者年金のご相談・加入申込みは、
JA八千代市(☎047-450-3711)または
農業委員会事務局(☎047-421-6793)へ。

詳しい内容は、
「農業者年金基金」→
ホームページまで



全国農業新聞

充実した農業・農村の情報が届く!

発行日 毎週金曜日(月4回)
購読料 月額700円(送料・税込み)
申込み先 農業委員会事務局(☎421-6793)

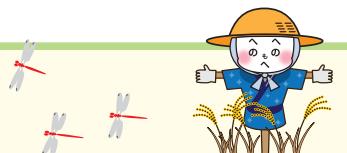


令和6年度の「八千代市農業委員会だより」が
第31回農業委員会だより全国コンクールで
全国農業新聞賞を受賞しました



広報委員一同で
記念写真

編集後記



どうしても後ろ向きになってしまいがちな農業経営ですが、新規就農希望者や今回取材した金子苺園のような若い仲間達が希望の光となって、農業の未来を明るく照らしてくれると思っています。

我らベテラン勢も応援しています!何か分からないことが出てきたら気負わず気遣わずに「ちょっと聞いて」みてください。

(広報委員 市川 善美)

令和7年11月発行
第55号

発行 八千代市農業委員会
編集 広報委員会

〒276-8501
千葉県八千代市大和田新田312-5
☎047-421-6793

農業委員会だよりの
情報はこちらから→



八千代市 農業委員会だより